

# ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)  
〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1 千石ビル402号  
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478  
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp  
年間購読料3,000円(送料込み) 振替・00190-2-76501



THE JOURNALIST

2015.8.25

## JCJ 8月集会

# 「アベ政治」に一撃



JCJ 賞贈賞式で講評する諫山修選考委員  
8月集会の撮影は河合良一

8月15日、飯田橋の東京しごとセンターで、JCJ 8月集会が開かれた。JCJ 賞が贈賞されるこの集会、今年はTB Sニュース23アンカーの岸井成格氏が基調講演した。前日14日には安倍首相の戦後70年談話が発表されたが、開会挨拶で中村梧郎代表委員は、首相談話

は、一般論を語るだけで自分が何をするか語っていないと批判した。続いて講演した岸井氏も、首相談話発表までの経緯から話を始めた。岸井氏は、首相談話が、「侵略」「事変」「戦争」と言葉を巧みに使い分けている点を分析し、談話がどこから戦争が始まったかに言及していないことを指摘した。

「日米関係を対等の同盟関係にしなければならぬ」と考えていることを指摘、安保法制を強行する政権の意図を分析した。続いてJCJ賞贈賞式に移った。最終候補作品を含む諫山修JCJ賞選考委員の丁寧な講評に続き、



「一歩でも二歩でも報道に磨きをかけていきたい」と、決意を語る松元剛琉球新報報道本部長

## 琉球新報 沖縄は植民地状況だ 民族自決権の適用を

安倍首相が出した戦後70年談話で、沖縄の新聞として注目したのは、植民地支配からの決別と民族自決権の尊重を述べた部分だ。

沖繩はいま植民地支配という状況にある。県知事選、名護市長選、衆院選で、辺野古(名護市)への新基地建設に反対する候補が当選したのに、日本政府は民意を無視して基地を押し付けている。うるま市沖で米軍ヘリが墜落した際には、詳しい情報が地元には届かない。県民の命の重さが、米軍基地のあるドイツやイタリアと比べても軽く扱われている。安倍首相が民族自決権を語るなら、ただちに沖繩に適用すべきだ。

2013年12月27日、仲井間弘多知事(当時)は辺野古の埋め立てを承認した。その夜中、本社に30〜40人の記者が集まり、一月足らずの間に本土の読者が3ヶタも増えた。ライバルの沖繩タイムスと競いながら、一歩でも二歩でも報道に磨きをかけていきたい。

作家の百田尚樹氏が沖繩の2紙をつぶせと発言するなどの報道圧力問題があった。その時、少年野球の保護者会長をしている私に、高校の他チームの保護者たちが来て、手を取って「つぶされないうちに、一生守るから」と励ましてくれた。

## 各受賞者スपीチ (2・3面に続く)

急「リニア中央新幹線」を著した榎田秀樹氏、「獄中メモは問う」海道を綴り教育連盟事件」を連載した北海道新聞の佐竹直子記者、長年のジャーナリズム実践・研究活動

### 基調講演

# 米国に恩を売りたい首相 米側の「本音」を見すえた報道を

安倍首相の戦後70年談話は、ぎりぎり保守派を納得させる範囲で、保守派の言いたいことを全部言っている。侵略はむしろ西欧列強がやったこと。その危機感から日本は近代化した、というところから始まる。

侵略、事変、戦争と計算して巧妙に言葉を使い分けている。安倍政権は立憲主義を理解していない内閣。96条改憲が破綻して、集団的自衛権の憲法解釈を変

えた。これまでの歴代内閣は、9条に抵触するとしていた。政府は合憲の根拠を砂川判決と72年の政府見解とするが、その根拠は崩れている。

安保法制とは、いつでもどこでも世界規模で自衛隊を出すということ。日米安保の専門家であるアーミネージは「初めて自衛隊が米軍のために命をかける約束してくれた」といっている。これがアメリカの本音だ。米

太平洋司令官も、これからは「世界中どこでも米軍と自衛隊が協力して治安維持にあたる」と発言した。だが国会でいくら追及しても政府は認めない。認めたら法案は成立しない。

安倍首相は政権の使命は第一に戦後レジームからの脱却と考えている。自民党の結党時の党是である自主憲法の制定を目指す。

再構築。日米関係はどうしても占領した国、された国という上下関係になりがちだ。安倍首相は、アメリカが弱ってきた今のうちに、アメリカに恩を売れ。そうしなければ日米は対等な関係になると考えている。

さらに「日教組教育によってゆがめられた戦後の日本人を取り戻す」として、道徳の教科化や、愛国心、日の丸・君が代の義務化などを進めている。

岸信介元首相にインタビュをしたことがある。岸が言いたいのには、太平洋戦争は侵略戦争ではない、東京裁判は勝者が敗者を裁いた不当なものだ、ということ。「満洲」については「あれはわが作品だ」と語っていた。

今の安倍政権は暴走している。ジャーナリズムが権力の監視をしなければならぬ。JCJはまさにその役割を担っている。

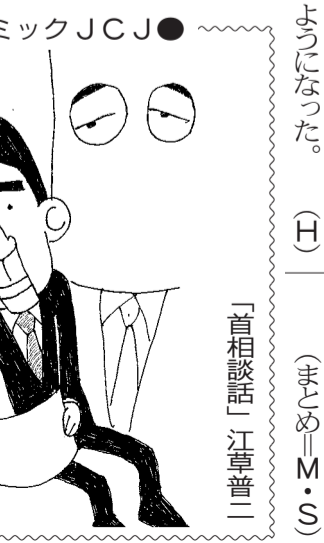


ニュース23アンカーの岸井成格氏

「首相談話」江草晋一

「首相談話」江草晋一

発言し、行動しよう。一人ひとりがジャーナリスト。JCJ 60周年。



「首相談話」江草晋一

# 講評

締め切り5月30日まで  
に自薦、他薦、143本  
のエントリーがあった。

推薦委員会の事前審査で  
13本が予選通過した。さ  
らに6月、7月の報道活  
動を見落とすことがない  
ように、JCJ 60周年に  
ふさわしい活動が続け  
てこられた人を顕彰する  
ために、3本の審査作品を  
追加。最終的に候補作り  
スト16本が決まった。

選考委員の会議で7本  
の受賞作を決めた。

新聞は6本。「原発利  
権」「真金システム」中部  
電力、関西電力の裏面史  
「独白」は朝日新聞に去年  
の7月から8月にかけて  
18回連載された。

「赤旗」は、北部方面  
隊3万8千人の隊員が、  
今日まで家族への手紙と  
が逮捕の理由だ。



後追いでなく、論点が届く報道をしていくと語る金井政治部長

「3・11後、貴紙は輝  
いている」という言葉を  
もらったが、確かに、オ  
ンリーワンの評価をいた  
だいていると思うことが

## 東京新聞 萎縮しないメディア 論点明示報道を進化・発展

ある。1、2月ごろの国  
会で、メディアが萎縮す  
るといふ議論があったと  
き、与党席から「東京新  
聞はどうかだ」という  
ヤジがあった。そうか、  
政権与党からお墨付き  
をもらったな、と思っ  
た。

昨年引き続き受賞  
では「起きたニュースの  
本質をきちんと読者に届  
ける努力をしている」と  
「論点明示報道」は発展  
途上であるかのような評  
価があったが、ずっと続  
けてきて、それが定着し

てきたと評価されたのだ  
らうと理解している。  
だから、6月4日の夕  
刊でも午前10時過ぎには  
終わって締切りには十分  
な時間だった。取材側も  
整理部も「これはトップ  
だ」と、ごく当たり前の  
感覚で紙面をつくった。

翌日朝刊では社会部が  
「首都圏の介護難民」の  
ニュースを持っていたの  
で、政治部はすでに夕刊  
で行ったので控えめだっ  
たが、社会部側から「違  
憲立法がトップだ」と言  
ってきた。論点明示と価

値観が共有されていた。  
安倍政権は強行採決の  
後に新国立の見直し、原  
発再稼働、談話など矢継  
ぎ早に問題を出してきた  
ら何度でも書くことが大  
事だと思っ  
論点明示をもつ一段高  
めて論点が届く報道をし  
ていきたい。

（まとめS・M）

「政権が日々打ち出す  
ニュースを後追いつるので  
はなく、論点をそしゃ  
く、反芻しながら何度で  
も報じた」と昨年  
JCJ大賞に続いてJC  
J賞を受けた東京新聞の  
金井辰樹政治部長はこう  
決意を語った▼次から次  
へとニュースが出てきて、  
昨日の、あるいはちよつと  
前のニュースは忘れられ  
てしまう。議論のいとま  
を与えられないまま時間  
が過ぎる。誰かが意図的

に作るニュースもあるし、  
予想しないとき突然新し  
く出てくるニュースもあ  
る。メディアに餌を与え  
ようと権力が投げるユ  
ースもある。メディアは  
を作っていた(11日)な  
どという国会審議さえ薄  
めてしまう▼こうなる  
と、「勝った勝ったという  
けど実は負けていた」と  
か「安全は確保している  
というが全くのウソ」な  
どというのは、またかわ  
いひのかもしれない。  
「仕掛け」は大きいほど  
見えにくくなる。メディ  
アが社会で一定の位置を  
占めている以上、出てく  
るニュースは無視できな  
い。悩ましいのだ▼「法  
案成立と引き替えに安倍  
退陣」も囁かれていたと  
いう。ごまかされるわけ  
にはいかない。安倍であ  
ろうと、誰であろうと、  
戦争法案を認めるわけ  
はいかない。▼ことは憲  
法が壊され、日本が戦争  
できる国になることだ。

し28年の歳月が経ちまし  
た。昭和から平成へ、ベ  
ルリンの壁崩壊、アフガ  
ン・イラク戦争、3・11  
と、多くを伝えてきまし  
た。今、日本は大きく揺  
らんでいます。何を伝え  
るべきか。反省を繰返し  
ながら頑張っていきま  
す」  
西野さんは「世の中の  
大事なことを愚直に伝え  
る姿勢に今後も変わりは  
ない」と締めくくった。  
（まとめS・K）

## エントリー143本、最終候補16本 各ジャンルごとに力作揃う



諫山 修選考委員

と9条」は4月から始ま  
った。連載はまだ続くの  
で評価はこれからだ。  
出版は四つだ。『抵抗  
の拠点から朝日新聞「慰  
安婦報道」の核心』。昨年  
開戦前の1940年。  
特高が尋常小学校の教  
師75人を一斉に逮捕。生  
活のありのままを児童に  
書かせる「生活綴り方」  
が逮捕の理由だ。

を貫通するトンネルの中  
で大地震が起きた時、乗  
客はどうなるかなど、恐  
ろしい話が次々出てく  
る。衝撃の大きい本だ。  
『牛と土 3・11その  
後』は、読み出したら一  
気に読んだ。放射能で汚  
染された牛を殺せという  
国の命令に対し、殺すの  
は嫌だという飼主の牛  
550頭が生きている。

だ。日本兵1万人で生き  
残ったのはわずか30人。  
日本テレビのシリーズ  
「9条を抱きしめて」は、  
アメリカ海兵隊員でベト  
ナム戦争にも従軍し、96  
年から日本に住んでいた  
アレン・ネルソンさんに  
焦点をあてた。彼は日本  
の憲法9条に感動して、  
9条を世界に広める語り  
部として活動してきた。

放送部門でJCJ賞を  
とつたのはTBSの「サ  
ンデーモーニング」。87  
年に放送開始で、29年目  
に入る長寿番組。秘密保  
護法や安保法制反対の世  
論形成の力になっている  
のは間違いない。死語に  
なりつつあるリベラルの  
立ち位置が生きている番  
組だといえる。貴重な存  
在だ。

マルジャンルの部門  
は二つ。ネット活用の  
「マガジン9」の読者は  
20万人を超える。  
ラジオフォーラムの活  
動。市民運動がカンパを  
集めスポンサーになり、  
原発問題を中心とした番  
組を、国内外で放送して  
いる。

特別賞はジャーナリス  
トとしての実績でも、研  
究者としての見識でも、  
市民との連帯を求める運  
動の面でも大きな力を尽  
した。誰かが意図的

「風を読む」の4大コー  
ナーで28年間、続けてい  
ると説明。「情報系番組  
で、司会を関口宏一人で  
通している唯一の番組で  
す」と、ぶれない姿勢に  
誇りをにじませた。

スタジオトークが番組  
の目玉だが、西野さんは  
「コメントターの事前  
打ち合わせはやらない」  
と語る。その理由は「予  
定調和を避けるため」だ  
と言っ。西野さんは「コ  
メンターは全員、30  
分前にスタジオに入る。  
ゆつたり語り合ってもら  
うためです」。

番組に挿入するVTR  
も、スタジオのサブキャ  
スターが生でナレーショ  
ンを読む。出演者もVTR  
に集中できる。  
リベラルなスタンスは  
視聴者の共感を呼び、存  
在感を増している。  
西野さんは「世の中の  
大事なことを愚直に伝え  
る姿勢に今後も変わりは  
ない」と締めくくった。  
（まとめS・K）

## サンデーモーニング 大事なことを愚直に ぶれない姿勢に誇り



「コメントターの事前打ち合わせはしません」と語るTBS野プロデューサー

番組は1987年10月  
にスタートした。西野  
プロデューサーは、「①大  
事なニュース3本を取り  
上げる力バーストリー  
②張本勲のスポーツコー  
ナー③1週間コーナー④



生きている牛は貴重なくれ、データを提供していると語る真並さん

牛は、当時、3500頭  
いたが、国の政策によっ  
て、その半分が安楽死の  
処分が付された。それで  
も今、約500頭の牛が  
生き延びている。  
賠償金を拒んでも、牛  
と共に生きる道を選んだ  
人たちの努力は、評価さ  
れてしかるべきだ。  
（次面へ続く）

## 牛と共に生きる喜び 原発再稼働許せない

（まとめS・M）

# JCJ受賞者によるスピーチ

それぞれの「ジャーナリズム」を参加者と共有

## 読者が続々情報提供 秘密法の危険、昔も今も



「人生を狂わされてくたさ、人を背中を押した」と語る佐竹直子さん

「北の果てのローカル記者のローカル記事に光を当てていただき、光栄です」――佐竹直子さんの通る声が会場の感動を呼んだ。連載は「獄中メモは問う・作文教育が罪に問われた時代」として出版されている。

太平洋戦争開戦直前、釧路の尋常小学校で「綴り方(作文)を熱心に教えていた教員たちが特高(特別高等警察)に治安維持法違反容疑で逮捕・拘禁された。その教員の「獄中メモ」を佐竹記者が遺族から入手した。記者の勘で「これ

## 問題だらけのリニア JR東海へ闘志わく



「環境破壊や強制収用をいじめられたい」と語る榎田秀樹さん

この本の出版は、難産でした。原稿の半分ほどは、ある月刊誌の連載がベースになっている。連載中からその月刊誌の発行元から単行本出版が決まっていた、に初版300部を印刷し、後は書店に並ぶだけの状態でした。ところが出版社の上

部組織である某大学から横ヤリが入った。「この本の意図(リニア計画への疑念)が大学の意図と思われるのは困る」とクレームをつけた。結局、製本された3000部は断裁されました。ほかの出版社に当たったが、どこでも出版を断られた。しかし、紹介された旬報社の社長に出版依頼したところ、OKが出たのです。

だが、私は、家屋や田畑の強制収用、トンネル工事による環境破壊をじつと待ってられない。少しでもそれを食い止めるため取材を続けました。今回の受賞により、強硬に事業を進めるJR東海のやり方に改めて批判する気力がわきました。来年、第2弾目の「リニア批判本」を出すのが目標です。(まとめ＝M・H)

「ジャーナリストは権力からも、資本からも自立していかなくてはならない」と強調した。松田さんの願いは、JCJの職能運動につながった。松田さんの精力的な分析・研究活動は、権力のメディア弾圧に対する告発や日本のメディア管理システムへの提言など、多面的にわたる。

## リレー時評



JCJ代表委員 清水正文

## 中学の歴史・公民の教科書が危ない!

大阪市教育委員会は8月5日、来年度から市立中学校および特別支援学校で使用する歴史と公民の教科書に「育鵬社版」を採択した。この「育鵬社版」の歴史・公民教科書は、歴史学や憲法に携わる人びとをはじめ、多くの父母・市民から問題点が指摘されてきた。

「歴史」では、アジア太平洋戦争を「自存自衛」の戦争として肯定するだけでなく、「大東亜共栄圏」の呼称で「欧米による植民地支配から

戦後放棄の平和主義と基本的人権の保障を敵視するなど、自民党の改憲案を引き写したかのよう内容になっている。大阪市では今回の採択の会議に参加させる目的で「日本教育再生機構」とつながりの深い教育委員を任命し、今まで

八つあった大阪市内の採択区を一つにするなど、「育鵬社版」採択に向けて着々と準備をしてきたといっても過言ではない。また、教育委員会

民」が採択された東大阪と採択区が一つにされた大阪市の「危ない」といわれたので、自衛法曹団・民主法律協会

大阪では8月12日までに、この両市のほかに河内長野市(公民)、四條畷市(歴史・公民)が「育鵬社版」を採択した。関東でも横浜市・大田原市・藤沢市・武蔵村山市と都立の中高一貫校・支援学校などが採択している。8月末までに



「JCJ」はナショナルセンターの役割を語る松田さん

## メディア研究と取材 精力的に職能運動

松田さんは1953年に日本経済新聞社に入社して以来、半世紀以上をメディア取材に打ち込み、85歳の今もNHK問題の解明など、メディア

松田さんは「一番言いたいことは、今日の安倍暴走を許した一番の根源のところに、メディアの姿勢があるということだ。メディアの劣化が政治の劣化を招き、民衆の劣化をもたらす」と警告。同時に「戦争法案の衆院強行採決をきつかけ、国民の大きな政治的自覚が広がりつつある」と市民運動の高揚に着目する。「JCJはなぜ、国民運動を起すべくナショナルセンターとしての役割を果たしていく必要がある」と強調した。(まとめ＝S・K)

たが、どこでも出版を断られた。しかし、紹介された旬報社の社長に出版依頼したところ、OKが出たのです。マスコミは大スポンサーであるJR東海に配慮してリニア中央新幹線の問題点をほとんど報じていません。ある記者は「何か事件が起れば取材はできます」と言つた。だが、私は、家屋や田畑の強制収用、トンネル工事による環境破壊をじつと待ってられない。少しでもそれを食い止めるため取材を続けました。今回の受賞により、強硬に事業を進めるJR東海のやり方に改めて批判する気力がわきました。来年、第2弾目の「リニア批判本」を出すのが目標です。(まとめ＝M・H)

# 大野晃の スライムコラム

新国立競技場の超巨額建設計画は安倍首相の独裁的「白紙」宣言で消えたが、東京五輪をどう開催するか、どう将来に生かすかは、いまだに不透明なままにある。

## 霧の晴れない東京五輪

国立競技場の事業主体はサッカーくじの胴元の日本スポーツ振興センターであり、その改修は同

センターが発注するのが筋だが、国が直接、計画して発注することになった。だが超巨額計画の責任が明確にされないのだから、新計画で問題が起きても誰も責任を

が「2兆円くらいはかかる」などと公言し財政負担する国民は蚊帳の外にある。日本オリンピック委員会などスポーツ界もあずかり知らぬ存在だ。首相官邸と自民党ボス

が、やる気はない」が開催国民の感情では、五輪が成功するわけもない。リオデジャネイロ五輪開幕まで1年を切ったが日本の五輪ムードは盛り上がりや欠き、平和の希求に不安が広がる。

## 首相経験者5人

# 「安倍首相への提言」を表明

### マスコミOBの要請に応え、集団的自衛権行使等で直言

JCJとマスコミ9条の会は11日、5人の首相経験者が国会で審議中の戦争法案について、廃案などを求める「安倍首相への提言」を表明したと発表した。提言は同日、安倍首相に送付した。

澤地久枝、原寿雄各氏らマスコミOBの要請に応えたもので、細川護熙、羽田孜、村山富市、鳩山友紀夫、菅直人各氏ら5人の元首相が提言した。

憲法の精神が今日の平和と繁栄の基礎を築いた。特に9条は唯一の被爆国である日本が世界に向けて平和宣言」とした上で「海外派兵を認める集団的自衛権は絶対に認められない」と強調。「安倍総理から日本を守ろう」と訴えた。

国民が日本のあり方を決めるのだ。あきらめてはいけない」と呼びかけた。鳩山氏は「集団的自衛権行使には、憲法改正を堂々と行い、表裏から正直に入らなければ禍根を残す」とした上で、「アメリカに媚を売ろうような形での集団的自衛権行使の容認は、アメリカの戦争に唯々諾々と参加することになる」として、反対を表明した。鳩山氏はまた、「日本を『戦争のできる普通の国』ではなく、『戦争のできない珍しい国』にすべきだ」と提言した。

菅氏は「解釈改憲を強行し、明らかに憲法に違反する安保法制を強行しようとする」安倍首相の政治姿勢は「立憲主義に反し、民主主義の総理としての資格はない」として、安倍首相に即刻辞任を求めた。



歴代首相に提言を要請。提供=FmA

これは、むのたけし、羽田氏は「平和的自衛権行使に反対を表明。「違憲の疑いが強い安保法制を成立させる」と、全ての統治は憲法で律せられるという立憲主義は崩壊し、国益を損なう」と主張し、同法案を廃案とするよう求めた。

村山氏は「歴代自民党政府も集団的自衛権は憲法が認めないとして、現行憲法は守られてきた」と指摘し、「勝手に憲法解釈を変えて法案を提出した」首相の手法について、「立憲主義無視」と批判。安倍首相に対し「国民の声や意思を甘く見てはいけない」と警告し、国民に対しては「主権者である

が、やる気はない」が開催国民の感情では、五輪が成功するわけもない。リオデジャネイロ五輪開幕まで1年を切ったが日本の五輪ムードは盛り上がりや欠き、平和の希求に不安が広がる。5年後に迫った開催に向けて、マスメディアは五輪の原点に帰り、国などを厳しく監視して都民や愛好者とともに開催のあり方を問いただし続ける必要があるだろう。(スポーツジャーナリスト)

一方、職場はまだ自由で、仕事中に京橋のJCJ事務所立ち寄りこともできた。私も「時間内組合活動」で「ジャーナリスト」の原稿を書いたり編集を手伝った。亡くなった後、資金を募り94年12月「信念のジャーナリスト三上正良」という小冊子を作った。娘さんたちに取材し「三上さんの生涯」を書いた。

### 止めよう！ 辺野古埋立て 9・12国会包囲

日時 9月12日(土) 14時開始  
場所 国会周辺  
主催 止めよう！ 辺野古埋立て9・12国会包囲実行委員会  
http://numanchain.tobiro.jp/

### 手弁当で事務局長15年

丸山重威

文化大革命下の中国の干渉で小林雄一議長らが去った後、1967年8月から15年間、事務局長として組織を支えたのが三上正良さん。

行われ、「再建」への道が開かれた。三上さんは、67年度から82年7月までの15年、事務局長を務めた。政治記者となったが、レッドバードで職を追い



1989年2月、東京・渋谷の山手教会で『信念のジャーナリスト三上正良』より撮影＝蔵原輝人氏

室蘭中学時代から社研の活動で目をつけられ刑務所暮らし。出所後、やると小樽新聞から東京日々に転じ記者生活。だが「現実には戦争と反動への翼賛記者に甘んじるか沈黙」の時代。戦後、毎日

## 政府、沖縄と「集中的に協議」

### 今こそオール沖縄からオール日本への闘いへ

8月4日、「辺野古ボリリング作業停止1カ月のコースが、沖縄だけでなく全国を驚かせた。菅官房長官と翁長雄志沖縄県知事がそれぞれ会見して発表した内容は、8月10日から9月9日までの1カ月間、双方が辺野古基地建設に関するすべての工事や手続き

ことはいそがなかったからだ。やっとここまで来たんだと思った。もちろん、この「歩み寄り」が、戦争法案で支持率を低下させている安倍政権の「埋め立て承認取り消し」に動き出した

翁長知事への牽制、時間稼ぎであり、戦争法案と辺野古の前者をまずは成立させてから、辺野古に取組むという計算づくのものであることを、私たち県民は見抜いている。しかし、それは、沖縄の未来のために辺野古基地を絶対造らせないと



連載

官、中谷防衛大臣、岸田

浦島悦子



# 「戦争はどのように始まるか」テーマに講演

## 香川支部「戦争体験を語りつく集い」開く

8・15。香川でこし島大学教授が講演、参加者のトークが続きました。「戦争体験を語りつく集い」です。「戦争はどのように始まるのか」をテーマに饗場和彦さん(徳



83歳のむかし軍国青少年(植田正太郎さん)

講演は「安保法制の問題点もふまえて」90分、安倍政権の危険性を語りました。

「良心派の公明・学会の方々とよびかけ、集団的自衛権に歯止めをかけよう」と努力はしたようだが、今、安倍政権には「その尽力が意味をなさない」。今立ち上がって連立を離脱すれば「その

英断は日本の政治史に深く刻まれるでしょう」と、プログ「饗場和彦の政治コラム」を示しながら述べました。

会場からは「アメリカは戦争によって国家経済が支えられている。そのアメリカの戦争と一緒にやる危険をどう考えるのか」。2002年の防衛省の情勢誌には普通寺の自衛隊がアメリカと共同訓練で大きな成果を上げた」と書いてあった。今、危険なアメリカ、日本はもって進んでいると思

「私は主権在民の独立国家だろうか」と疑問を感じている」といいます。その中身は沖縄の総意が反対している基地建設を強行する、違憲の集団的自衛権を解釈改憲で押し進める、思いやり予算、日米合同委員会などなど。「この道を行くと死文化したとされている。日本を対象にしている『敵国』条項(国連憲章107条)がよみがえ



8団体共催の名古屋集会

がいまこそ国際的に信頼される国になることが問題解決の道と思う。同じ年配の男性が「ドイツは本当にあやまったが日本はそうではない」と続けて論議が深まります。キリスト者、女性団

### 永田浩三氏が講演

#### 名古屋の8・15集会 NHKを鋭く批判

永田浩三氏は、前日発表された「戦後70年安倍談話」のメディア報道に「戦前・戦時の政府与党の圧力が強まっている。慰安婦問題をとり上げた番組に安倍

永田さんは最後に自分の住む杉並区の人たちが出した「戦後70年宣言」を紹介。「圧力に屈しない自由なメディア」を応援しようと呼びかけた。

永田さんは最後に自分の住む杉並区の人たちが出した「戦後70年宣言」を紹介。「圧力に屈しない自由なメディア」を応援しようと呼びかけた。

毎年夏になると、日本の戦争に関する演劇が多くなる。この「外交官」もその一つ。外交官の泥沼にはまり込んでいったのかを問うことである。それを語るために「外交官」の口を借りた。したがって登場するのはすべて男というのも、これは演劇である以上「フィクション」には違いないのだ。ストーリーは「歴史そのもの」であり、登場人物の野木萌葱は、自分の体験していない時代の史料をよく丁寧に渉猟したと感心する。演出は黒岩亮。

舞台は1946年5月3日、まさに極東国際軍事裁判が始まる日の開演直前の前室。登場するのは、A級戦犯に問われた松岡洋右(山崎秀樹)、広田弘毅(平尾仁)、重光

8月15日を機にネットサーフィンをしたところ、米国の識者の「日本は平和憲法を護れ」との主張に出会った。アメリカ政府は安倍内閣の違憲解釈による集団的自衛権の法制化を歓迎しているが、9条を評価するアメリカの声を聞き取りたい。

## アメリカからも「9条護れ」の声

ワシントン・アメリカン大学のピーター・カズニック教授(歴史学)は「日本はアメリカの核の傘から抜け出して、憲法9条がうたう本當の平和主義を取り戻すべ

「安倍政権が目指す安全保障関連法によって、集団的自衛権の行使を可能にすることは何を意味するか。それは日本の若者が、米国と同じように、戦地から遺体

袋に入れられて故郷に帰ってくることもあり得ると言うこと。そんなことが日本で起きてほしくない。」

韓国の慶熙大学のE・パストリッチ教授は8月16日の信濃毎日新聞でこう語った。

教授はさらに「日本が世界のリーダーになるには平和憲法を放棄するのがいいのか? それともこれを護り、活かすのがいいのか?」と問

### 演劇回り舞台

#### 青年座『外交官』 東京裁判で戦犯とされた外交官たちが語る日本の戦争裏面史

会話を言い争いを通じて明らかになる戦争へと向かう日本の外交交渉の裏側——実はその場面の



撮影：坂本正都

「外交官」の口を借りた。したがって登場するのはすべて男というのも、これは演劇である以上「フィクション」には違いないのだ。ストーリーは「歴史そのもの」であり、登場人物の野木萌葱は、自分の体験していない時代の史料をよく丁寧に渉猟したと感心する。演出は黒岩亮。

舞台は1946年5月3日、まさに極東国際軍事裁判が始まる日の開演直前の前室。登場するのは、A級戦犯に問われた松岡洋右(山崎秀樹)、広田弘毅(平尾仁)、重光

戦争は政府の嘘・秘密から始まる

9月7日(月)午後1時30分〜3時30分

会場 参議院議員会館1階101会議室

提起 「秘密保護法と戦争法」

講演 「秘密保護法下の刑事事件の課題」

資料代 500円

共催 秘密保護法対策弁護団・秘密保護法廃止へ実行委員会

連絡先 日本国民救援会03-5842-5842

前に、彼らは帝国ホテルに設けられた外務省の事務室で(外務省のもの)はすでに空襲で完全に破壊されていた。裁判対策を行うべく集まっていた。しかしいくら話し合ったところで、まだ体験したことのない「戦争犯罪」裁判に対する対策を立てようもない。すべて「陸軍の暴走」に押し付けてしまえ、という乱暴な意見から、自分に責任があると殊勝に首をうなだれる人物まで、喧々譁々の対策会議は果てることがなかった。

しかしその中で次第に明らかになるのは、満州事変から三国同盟を経て、遂にボツダム宣言を受諾するに至るまでの日本の戦争の裏面史である。(7月31日〜8月9日青年座劇場にて上演)

安住邦男

戦場ぬ止み 辺野古・高江からの祈り

三上智恵

### 怒りと悔しさに身をふるわせ取材した記録の重さ

「お父さんお母さんが」とっては遠い対岸の火事、オスプレイ反対に疲れた時は私が代わりにやっ

「お父さんお母さんが」とっては遠い対岸の火事、オスプレイ反対に疲れた時は私が代わりにやっ

「お父さんお母さんが」とっては遠い対岸の火事、オスプレイ反対に疲れた時は私が代わりにやっ



んなに怒ってもあんたは謝ってまた来る。変わって

んなに怒ってもあんたは謝ってまた来る。変わって

んなに怒ってもあんたは謝ってまた来る。変わって

次から次と起る出来事、これが市民に對して国がすることか心をえぐられ目をそむけたくなる。懇願しても抗って闘うほど権力は巧妙かつ狡猾になる。しかし沖縄も「叩けば叩くほど、強く

次から次と起る出来事、これが市民に對して国がすることか心をえぐられ目をそむけたくなる。懇願しても抗って闘うほど権力は巧妙かつ狡猾になる。しかし沖縄も「叩けば叩くほど、強く

次から次と起る出来事、これが市民に對して国がすることか心をえぐられ目をそむけたくなる。懇願しても抗って闘うほど権力は巧妙かつ狡猾になる。しかし沖縄も「叩けば叩くほど、強く

### 本・BOOK・ほん

（価格は税別です）

「琉球王国」だったのだ。だが1879年、日本政府による「琉球処分」が強行された。武器を持たない平和国家・琉球王国は、日本政府の武力の前に屈した。王国に殺された。この歴史を理解しなければ、現在の沖縄県民が安倍政権の強圧政治を「第2の琉球処分」と憤る心情も理解できようはずがない。

「琉球王国」だったのだ。だが1879年、日本政府による「琉球処分」が強行された。武器を持たない平和国家・琉球王国は、日本政府の武力の前に屈した。王国に殺された。この歴史を理解しなければ、現在の沖縄県民が安倍政権の強圧政治を「第2の琉球処分」と憤る心情も理解できようはずがない。

「琉球王国」だったのだ。だが1879年、日本政府による「琉球処分」が強行された。武器を持たない平和国家・琉球王国は、日本政府の武力の前に屈した。王国に殺された。この歴史を理解しなければ、現在の沖縄県民が安倍政権の強圧政治を「第2の琉球処分」と憤る心情も理解できようはずがない。

沖縄の自己決定権 その歴史的根拠と近未来の展望 編者=琉球新報社・新垣毅

## 琉球処分の不当性を明かし 真の自治への道を探る



琉球新報の2014年5月から100回に及ぶ長期連載「道標を求めて」琉米条約160年 主権を問う」をまとめたのが本書。表題の「沖縄の自己決定権」とは何かを追い求めた内容である。

琉球新報の2014年5月から100回に及ぶ長期連載「道標を求めて」琉米条約160年 主権を問う」をまとめたのが本書。表題の「沖縄の自己決定権」とは何かを追い求めた内容である。

琉球新報の2014年5月から100回に及ぶ長期連載「道標を求めて」琉米条約160年 主権を問う」をまとめたのが本書。表題の「沖縄の自己決定権」とは何かを追い求めた内容である。

かつて琉球は、独立国だったのか日本領だったのか、はたまた清国に属していたのか。沖縄の歴史を振り返るところから本書は始まる。苦難の歴史を抜きにして、沖縄の来歴を明らかにする。さらにフリス・オランダとも修好条約は締結された。

かつて琉球は、独立国だったのか日本領だったのか、はたまた清国に属していたのか。沖縄の歴史を振り返るところから本書は始まる。苦難の歴史を抜きにして、沖縄の来歴を明らかにする。さらにフリス・オランダとも修好条約は締結された。

かつて琉球は、独立国だったのか日本領だったのか、はたまた清国に属していたのか。沖縄の歴史を振り返るところから本書は始まる。苦難の歴史を抜きにして、沖縄の来歴を明らかにする。さらにフリス・オランダとも修好条約は締結された。

国防政策が生んだ沖縄基地マフィア 平井康嗣+野中大樹

## 辺野古新基地建設の利権にむらがる人脈と蠢動を暴く



進める勢力が存在する。反対運動の裏面で推進勢力はつごめられている。本書はそこにスポットを当てた。辺野古新基地建設に向け蠢動するそうした地元勢力を「基地マフィア」と名付ける。基地マフィアを構成する主なメンバーは、デベロッパー経営者、土木建設業者、砂利業界団体、元首長、市議会議員、商工会幹部、元市幹部職員、国會議員だ。利権を目指す推進派の暗躍ぶりを実名で報じている。

進める勢力が存在する。反対運動の裏面で推進勢力はつごめられている。本書はそこにスポットを当てた。辺野古新基地建設に向け蠢動するそうした地元勢力を「基地マフィア」と名付ける。基地マフィアを構成する主なメンバーは、デベロッパー経営者、土木建設業者、砂利業界団体、元首長、市議会議員、商工会幹部、元市幹部職員、国會議員だ。利権を目指す推進派の暗躍ぶりを実名で報じている。

進める勢力が存在する。反対運動の裏面で推進勢力はつごめられている。本書はそこにスポットを当てた。辺野古新基地建設に向け蠢動するそうした地元勢力を「基地マフィア」と名付ける。基地マフィアを構成する主なメンバーは、デベロッパー経営者、土木建設業者、砂利業界団体、元首長、市議会議員、商工会幹部、元市幹部職員、国會議員だ。利権を目指す推進派の暗躍ぶりを実名で報じている。

沖縄県の米軍普天間飛行場返還のパートナーとして日米両政府が強硬に押し進めようとしている名護市辺野古への巨大新基地建設に県民のほとんどは反対だ。しかし、一方で辺野古新基地建設を推

沖縄県の米軍普天間飛行場返還のパートナーとして日米両政府が強硬に押し進めようとしている名護市辺野古への巨大新基地建設に県民のほとんどは反対だ。しかし、一方で辺野古新基地建設を推

沖縄県の米軍普天間飛行場返還のパートナーとして日米両政府が強硬に押し進めようとしている名護市辺野古への巨大新基地建設に県民のほとんどは反対だ。しかし、一方で辺野古新基地建設を推

### 短歌 現代の窓 評小石雅夫

大口 玲子（心の花）

万縁になじみたる日本国憲法九条、九十九条を

万縁になじみたる日本国憲法九条、九十九条を

万縁になじみたる日本国憲法九条、九十九条を

食卓からアサリが消える日 三輪節生

## 干潟の減少や汽水域の変化で 貴重な味覚が失われる危機



「干潟が乾燥して、『無数の貝の白い墓場』が、屋敷のようになってしまったシーンが、目に焼き付いて頭から離れません」

「干潟が乾燥して、『無数の貝の白い墓場』が、屋敷のようになってしまったシーンが、目に焼き付いて頭から離れません」

「干潟が乾燥して、『無数の貝の白い墓場』が、屋敷のようになってしまったシーンが、目に焼き付いて頭から離れません」

有明海に限らない。「経済的利益優先」によって、「干潟の減少で漁獲量が減るアサリ」や「汽水域の変化で減少するシジミ」など、全国各地で貴重な味覚が失われようとしている。

有明海に限らない。「経済的利益優先」によって、「干潟の減少で漁獲量が減るアサリ」や「汽水域の変化で減少するシジミ」など、全国各地で貴重な味覚が失われようとしている。

有明海に限らない。「経済的利益優先」によって、「干潟の減少で漁獲量が減るアサリ」や「汽水域の変化で減少するシジミ」など、全国各地で貴重な味覚が失われようとしている。

安倍自・公政権が国会の中の数を恃んで行なった「戦争法案」強行採決の暴挙は、その後ますます国民の不信と怒りを呼び、さまざまな層、年代、各地へ広がり「9条壊すな」「戦争させない」「だれのことでもころさせない」ということからも、さらに「アベ政治を許さない」という思いの共有にまで進展しています。また、国民的な憲法意識、学習もさまざまに行われています。

安倍自・公政権が国会の中の数を恃んで行なった「戦争法案」強行採決の暴挙は、その後ますます国民の不信と怒りを呼び、さまざまな層、年代、各地へ広がり「9条壊すな」「戦争させない」「だれのことでもころさせない」ということからも、さらに「アベ政治を許さない」という思いの共有にまで進展しています。また、国民的な憲法意識、学習もさまざまに行われています。

安倍自・公政権が国会の中の数を恃んで行なった「戦争法案」強行採決の暴挙は、その後ますます国民の不信と怒りを呼び、さまざまな層、年代、各地へ広がり「9条壊すな」「戦争させない」「だれのことでもころさせない」ということからも、さらに「アベ政治を許さない」という思いの共有にまで進展しています。また、国民的な憲法意識、学習もさまざまに行われています。

食料自給率が40%前後に低迷する日本。「和食」がユネスコの無形文化遺産に指定される一方で、その主要食材である日本の多様な農水産物は、環境破壊や経済至上主義によって、激減しつつある。地域の多様な食文化や豊かな味覚に支えられてきた日本の「伝統的な食」は、今や大きな危機にさらされている。本書は、食材の現状と資源保護の取り組みの現場取材を続けてきた新聞記者の警世の一冊である。

食料自給率が40%前後に低迷する日本。「和食」がユネスコの無形文化遺産に指定される一方で、その主要食材である日本の多様な農水産物は、環境破壊や経済至上主義によって、激減しつつある。地域の多様な食文化や豊かな味覚に支えられてきた日本の「伝統的な食」は、今や大きな危機にさらされている。本書は、食材の現状と資源保護の取り組みの現場取材を続けてきた新聞記者の警世の一冊である。

食料自給率が40%前後に低迷する日本。「和食」がユネスコの無形文化遺産に指定される一方で、その主要食材である日本の多様な農水産物は、環境破壊や経済至上主義によって、激減しつつある。地域の多様な食文化や豊かな味覚に支えられてきた日本の「伝統的な食」は、今や大きな危機にさらされている。本書は、食材の現状と資源保護の取り組みの現場取材を続けてきた新聞記者の警世の一冊である。

# 映画の鏡

## アートと人間が融けあう光景 『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』

### 水滴が舞う映像世界



この作品の舞台は香川県の小さな島に誕生した豊島美術館。そこにパーマメント作品として創造されたのが現る。「母型」に出会い、その場の持つ力に強く惹かれた中村佑子監督は内藤型である。

この「母型」は自然の中にあり、床からは地下水が湧き出し、それが集まり、泉を作り出している。「母型」に出会い、その場の持つ力に強く惹かれた中村佑子監督は内藤型である。

この「母型」は自然の中にあり、床からは地下水が湧き出し、それが集まり、泉を作り出している。「母型」に出会い、その場の持つ力に強く惹かれた中村佑子監督は内藤型である。

この作品によく出てくる水滴の動き。くっついては離れ、また結びつく。そして最後に泉に合流していく。それをじっと見つめるカメラ。この水滴の動きは人間と人間の関わりを現している。この作品の随所にモンタージュされ、その映像効果があえかなるイメージを作品に与えている。

中村監督は「内藤さん、この作品は、私の中で生まれつつあったこの映画のヴィジョンを消さないで作り続けてほしいと言ってくれました。いま改めて内藤作品を見ると、小さく静かな存在の中の、強靱さや烈しさを、より一層感じられるようになりました」と述べている。

中村監督の代表作はNHKBSプレミアム「幻の東京計画 首都にあり得た3つの夢」(9月より放送)の撮影を拒否した後も、渋谷イメージフォーラムにて公開。今井潤

### 新聞

## 安倍政権を「べた褒め」するマスコミ

猛暑の戦後70年夏は、ひととき「戦争と平和」に関心が集まる。政府は8月14日、安倍談話なるものを閣議決定した。決意に至るまで二転三転したが、政治状況を反映するものだ。メディアの評価も大きく割れた。

とりわけ朝日と読売の15日社説は対照的だ。朝日は、談話全体を通じて感じられるのは、自らやたと前向きに評価する。読売は先の大戦への反省を踏まえつつ、新たな日本の針路を明確に示したと前向きに評価する。

も理解と自制を求める。米メディアも安倍首相自らの言葉で謝罪がなかったと批判するが、読売の「べた褒め」主張には首を傾げざるをえない。読売同様に、安倍政権も理解と自制を求める。米メディアも安倍首相自らの言葉で謝罪がなかったと批判するが、読売の「べた褒め」主張には首を傾げざるをえない。読売同様に、安倍政権

12日に川内原発再稼働を電力安定の重要な第一歩だとし、14日には「安道のひとこと」延々と安倍首相に「独演会」のごとく語らせ、よいしょの墓石の抵抗が心に響いた。一人育てた息子

不後悔の決意で成立させた。それから1カ月後の安倍談話のニュース報道のひどいこと。延々と安倍首相に「独演会」のごとく語らせ、よいしょの墓石の抵抗が心に響いた。一人育てた息子

山田 明

## 月間マスコミ批評

戦争法案(安保法制)関連法案を強行成立させようとしているのは誰か、この法案で何を狙っているのか。この点をはっきりと見定め、歴史を逆行させる者を包圍する議論が飛躍的に増えている。

「世界」9月号で谷口長世氏(『死の産業と商人』から眺めた安倍関連法案)が興味深い。谷口氏は、オーストリアのチ

配している兼原信克・内閣官房副長官補兼国家安全保障会議次長がアミテージ・メイソン元国務副長官らとつながっていることを指摘している。

安倍内閣のもとでは今年2月、初めて限定的に他国軍を政府開発援助(ODA)で「支援」することができるようになった。これに注

意を促す谷口氏によれば、今回の安保法制は「日本防衛の真の独立どころか、米主導の新国際安保体制に組み込まれる最後の内堀を埋める作

を消費しないで作り続けてほしいと言ってくれました。いま改めて内藤作品を見ると、小さく静かな存在の中の、強靱さや烈しさを、より一層感じられるようになりました」と述べている。

中村監督の代表作はNHKBSプレミアム「幻の東京計画 首都にあり得た3つの夢」(9月より放送)の撮影を拒否した後も、渋谷イメージフォーラムにて公開。今井潤

### 出版

## 戦争法案強行にうごめく人々の群れ

「世界」9月号で谷口長世氏(『死の産業と商人』から眺めた安倍関連法案)が興味深い。谷口氏は、オーストリアのチ

配している兼原信克・内閣官房副長官補兼国家安全保障会議次長がアミテージ・メイソン元国務副長官らとつながっていることを指摘している。

安倍内閣のもとでは今年2月、初めて限定的に他国軍を政府開発援助(ODA)で「支援」することができるようになった。これに注

を消費しないで作り続けてほしいと言ってくれました。いま改めて内藤作品を見ると、小さく静かな存在の中の、強靱さや烈しさを、より一層感じられるようになりました」と述べている。

中村監督の代表作はNHKBSプレミアム「幻の東京計画 首都にあり得た3つの夢」(9月より放送)の撮影を拒否した後も、渋谷イメージフォーラムにて公開。今井潤



不適切質問社員、時事通信が処分

時事通信社は27日、米軍普天間飛行場の移設をめぐる、官房長官記者会見で不適切な質問をしたとして、当時経済部記者だった男性社員(47)を出勤停止1日、上司の経済部長を減俸の懲戒処分とした。

この男性社員は13日の記者会見で、沖縄県護国神社の埋め立て問題について質問し、「国と民間の境界線が曖昧な感じがする」といったような発言をした。中井潤

「こんな連中は放ってほしい」というと発言した。(毎日)7月28日付

◇番組制作会社4割「地位乱用」受ける

公正取引委員会は29日、テレビ局側と取引している番組制作会社の4割が、独禁法違反(優越的地位の乱用)に当たる可能性がある行為を受けたとの調査結果を公表した。

「局との取引継続への影響を考慮し、やむを得ず不利益を受け入れている」としている。

主な行為は、買いたたきや著作権の無償譲渡だった。(毎日)7月30日付

◇主婦の友社ムック本、首相経験者5人は11日、8月12日付

主なる行為は、買いたたきや著作権の無償譲渡だった。(毎日)7月30日付

◇主婦の友社ムック本、首相経験者5人は11日、8月12日付



記念講演する大木圭之介氏  
写真：NHKを考える東海の会提供

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

思い起こせば、戦前の日本のメディアは、権力を監視するというジャーナリズムの使命を忘れ、権力に迎合して満州事変に始まる日本の侵略戦争を阻止できなかっただけでなく、国民を戦争に煽り立てるような役割を演じてしまいました。この日本の15年戦争によって、アジア諸国にどれほど甚大な被害をもたらしたか、また、日本国のような米国の「理のな

れからの闘いの原動力に変えていくと決意を新たにしています。日本がこの70年間、ベトナム戦争やイラク戦争のような米国の「理のな

い戦争」にも巻き込まれずに、平和を保ってこられたのは憲法9条のおかげです。その9条の解釈を勝手に変えて、集団的自衛権の行使を認め、自衛隊を海外の武力行使にまで参加させようとする安倍政権の安保法案は、絶対に認めるわけにいきません。

憲法9条は、アジア諸国に対する謝罪の心がこもっているだけでなく、世界に対して日本の「不戦の誓い」を表明したものであります。私たちは、この日本国憲法の存在意義をしっかりと心に刻み、核も戦争もない平和な世界を築くことを目指してこれからも全力を挙げて取り組んでいくことを、戦後70年を機にあらためて表明するものです。

2015年8月15日  
日本ジャーナリスト会議

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

### JCJ声明

## 戦後70年8月

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

「二度と戦争のために...」民にもどれほど多大な犠牲を強いたか、日本のジャーナリストの一人として心からの反省と謝罪の言葉を述べるとともに、その反省と謝罪の念をこめて、いま再び日本を「戦争のできる国」に変えようとしている安倍政権の暴挙に立ち向かい、違憲の安保法案を廃案に追い込むだけでなく、安倍政権の退陣まで断固、闘うことをここに表明いたします。

## 被爆の実相を伝える ヒロシマ・ナガサキ写真展

8月4日から8月30日（日）に、日本カメラ財団JCIフォトサロンで開催の写真展。被爆直後を知っていますか？

田沼武能JPS前会長は「原爆の恐ろしさを知ってもらいたい。戦争はかっこよくない」と訴える。写真展の開催は、

主権の写真保存センターに長崎を撮影した山端庸介のフィルムが寄託されたことが、大きなきっかけになった。

ナガサキの撮影者は林重男と山端庸介の2人だ。被爆翌日の早朝から撮影した陸軍報道部の山端は、10日午前3時に現地へ到着した。「お握りを持つ親子」「乳を飲ます母親」

でも、由緒ある英経済専門紙を発行する老舗が、極東・日本の一新聞社に買収されるなんて考えられない！ことなのだ。

酒井憲太郎



被爆から70年の写真展＝8月6日、東京都千代田区のJCIフォトサロンで、酒井憲太郎撮影



お握りを持つ親子（左）、乳を飲ます母親（右）。1945年8月10日、長崎市で、山端庸介撮影、山端祥吾蔵、日本写真保存センター寄託

## 公共放送の役割、独立とは NHKを考える東海の会、発足 大木氏講演 多様な意見の場を提供

NHKの偏向報道を批判し、権力の「メディア支配」を排して独立した公共放送の実現を求める「NHKを考える東海の会」が7月26日に旗揚げした。

約100人が集まった。NHKの偏向報道を批判し、権力の「メディア支配」を排して独立した公共放送の実現を求める「NHKを考える東海の会」が7月26日に旗揚げした。

後、学習会や講演会などを通じて社会への発信力を強め、NHKなどに働きかけていく。

また、公共放送の役割について、「放送法にあるように、健全な民主主義」をめざす、つまり多様な意見を示し議論する場を提供することに「強く」と強調して、締めくくった。

（東海支部）

### 日経新聞、FT買収の狙い

#### デジタル・グローバル化へ大きな賭け

日経新聞、英フィナンシャルタイムズ「FT」買収——7月23日の主要欧米メディアはそろって驚きを隠さなかった。

活動の中心メンバーは順次、支局配転（3年〜6年）、その度に「暫し休刊」を余儀なくされる。

### 日経支部機関誌115号発行

#### 「支部創立60周年記念号」

7月末、ジャーナリズム史専攻の立命館大学准教授・根津朝彦氏が本部事務局を訪れた。元立命館大教授・松田浩氏の紹介で、機関紙の歴史を調査研究しているという。

今年支部結成時のメンバー・松田浩氏が「JCJ特別賞」受賞に輝いた「受賞の弁」を収録した。まさに「支部の至宝」である。「日経研究」には「FT買収の真相」に迫る論考など読みのである内容満載。1部3000円・申し込みは本部事務局へ。（日経支部）